


大学オリジナル交通情報ツールの作成と 新入生への配布効果




～学都仙台にて大学生の公共交通利用促進を図る取組み～

WS担当

パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社テクノ東北
NPO法人まちづくり政策フォーラム
株式会社ユーメディア

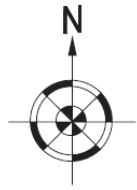
加藤 良彦
鷺坂 志織
足立 千佳子
伊東 幹也



デザイン担当

仙台市 都市整備局 総合交通政策部 公共交通推進課

取組みの概要



せんだいスマート

公共交通利用促進に向け、仙台市への転入者や大学生、小学生などへの働きかけや、自動車利用者を対象とした取組みを実施中。

転入者への取組み

小学生への取組み

時差通勤

大学生への取組み

パークアンドライド(P&R)

カーフリーデー

本取組みの目的



全体の目的

- 各大学の特性に応じた交通情報ツール(バスマップ等)を作成
- まだ居住地を定めていない新生に配布



居住地を公共交通軸に集約

学生の公共交通利用促進

『クルマ・バイクに過度に頼らない学生生活』
を送ってもらおう



取組みの目的

H20まで、3つの大学で実施

H21～より多くの大学に拡大

本取組みの流れ



H21年度

在仙大学現況調査(14大学)

交通情報ツール作成(5大学)

在学生・教職員に配布
意識変化の確認

留学生への取組み

啓発イベント開催

企業広告ニーズ調査

新入生への配布

H22年度

新入生への配布効果の確認

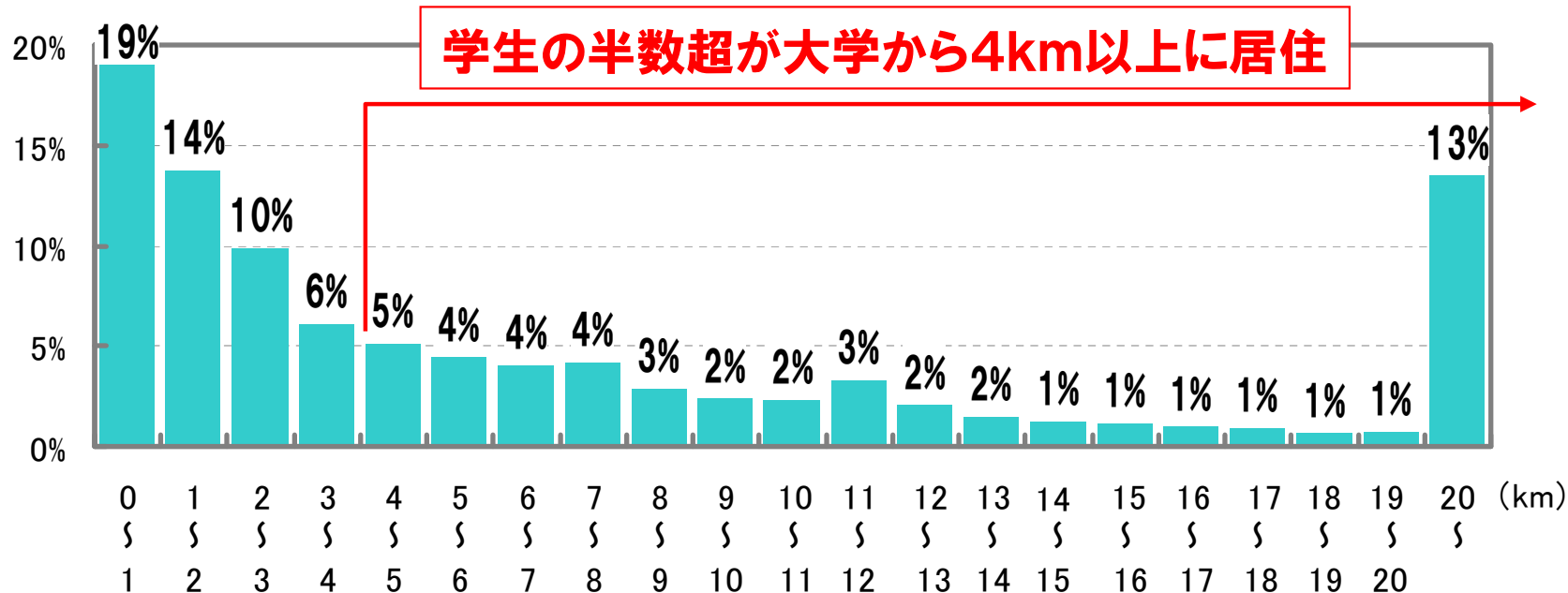
“学都仙台”の大学キャンパス



取組みの特徴

- ①各大学の動機付けとなる現状を把握。
- ②大学ごとにできる形で作る。
- ③大学ごとに異なる様々な工夫点。
- ④多角的な視点でのアプローチ。

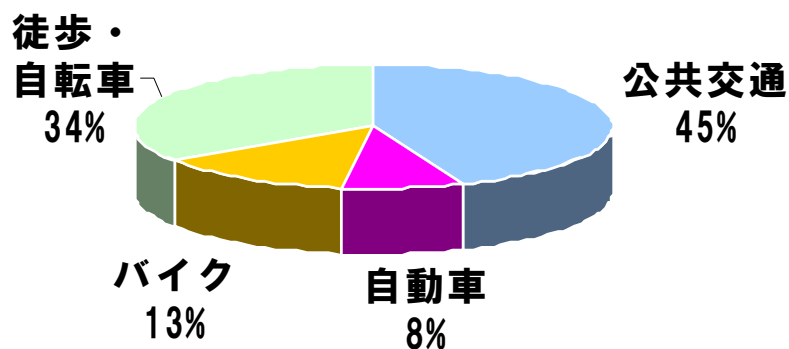
特徴① 各大学の動機付けとなる現状を把握。



▲学生の各大学までの距離帯別居住者割合

※14大学全学生：46,807人分

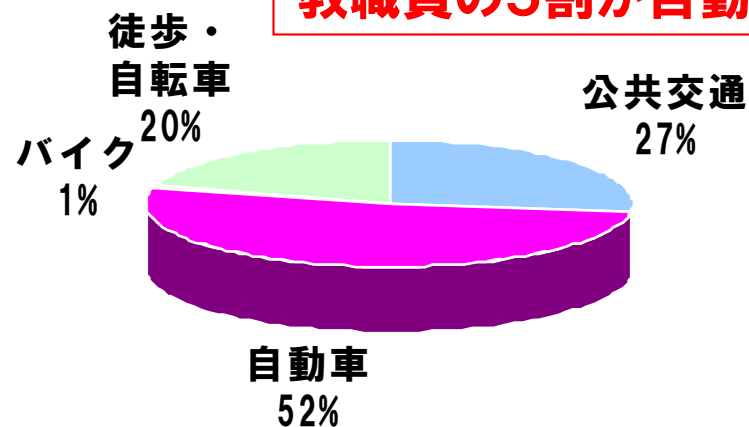
学生の2割がバイク・自動車



▲学生の通学時利用交通手段割合

※14大学全学生：46,807人分

教職員の5割が自動車



▲教職員の通勤時利用交通手段割合

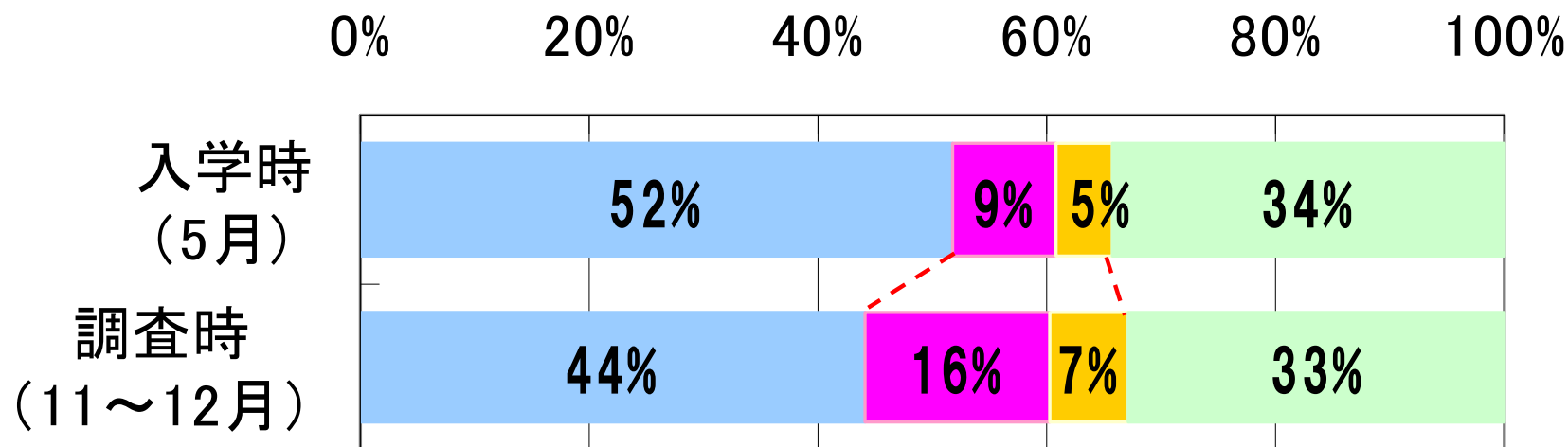
※14大学全教職員：8,575人分

特徴① 各大学の動機付けとなる現状を把握。



通学における交通手段の変化

大学生活に慣れてくると交通手段も変わる



■ 公共交通 ■ 自動車 ■ バイク ■ 徒歩・自転車

▲入学時(5月)・調査時(11~12月)別通学交通手段割合(H21)

※ツール作成5大学でのH21現況調査結果

特徴② 大学ごとにできる形で作る。



【仙台白百合女子大学】 NPO・企業と共同制作

◆第1回WS

- ・バスの必要性、現状の不満
- ・オリジナル情報、利用促進情報、仕様、構成の検討

◆第2回WS

- ・情報面のブラッシュアップ

◆第3回WS

- ・最終稿の確認

※学生課で募集した学生により制作



【東北学院大学(泉)】 自主制作

◆オリエンテーション

- ・動機付け

◆アンケート調査実施

- ・必要な情報、利用促進情報のリサーチ

◆ツール制作

※研究室の学生により制作
※大学生協発行の既存の
キャンパス周辺マップを
ベースとして制作



【東北生活文化大学】 自主制作

◆オリエンテーション

- ・動機付け

◆ツール制作

※研究室の学生により制作



特徴② 大学ごとにできる形で作る。



【宮城学院女子大学】 NPO・企業と共同制作

◆第1回WS

- バスの必要性、現状の不満
- オリジナル情報、利用促進情報、仕様、構成の検討

◆第2回WS

- 情報面のブラッシュアップ

◆第3回WS

- 最終稿の確認

※学内インターンシップメンバーで制作



【宮城大学(大和)】 企業と共同制作

◆第1回WS

- バスの必要性、現状の不満
- オリジナル情報、利用促進情報、仕様、構成の検討

◆第2回WS

- 情報面のブラッシュアップ

◆第3回WS

- 最終稿の確認

※研究室・ゼミ学生により制作

※大学生協も制作協力



特徴③ 大学により異なる様々な工夫点。



デザイン

- 全体的にイラストを入れ、鉛筆描きで手作り感を創出。
- 手にとりたくなるような色とキャッチコピー。
- バスマップをたたむと手帳のように使える機能性を確保。



居住地情報

- 直通バス路線のバス停から200m範囲とアパートを明示。
- 先輩たちがどの辺にどのくらい住んでいるかを表示。



啓発情報等

- バス車内でのエクササイズ情報を入れてバス利用を楽しく演出。
- 目に付く表紙で学生にとってのバスのメリットを強調。



など

THE
JCOMM
AWARD
2011

THE
JCOMM
AWARD
2011

JCOMMB

JCOMMTサイエンス

THE JOURNAL OF COMMUNICATIONS MEDIA RESEARCH

RESEARCH PAPER

THE JOURNAL OF COMMUNICATIONS MEDIA RESEARCH
RESEARCH PAPER

RESEARCH PAPER

RESEARCH PAPER



特徴④ 多角的な視点でのアプローチ。



留学生を対象としたツールも作成

仙台市に住む約1,600人の留学生への効果を検証するため、NPO、企業により留学生を対象としたワークショップを実施し、留学生向けの交通情報ツール(中国語、韓国語、英語)を作成・配布した。

— 自動車やバイクの利用を控えようと思った方が約5割

大学関係者への啓発を図るイベントを開催

せんだいスマートウィーク(ツールと効果の展示)

& スマートキャンパスセミナー(藤井先生と学生さんとのクロストーク等)。

広告掲載で作成・印刷費用を賄う可能性の調査を実施

広告掲載の可能性がありそうな業種の企業30社を対象にニーズを調査。

— “検討可能”が3割、

理由の多くが“ターゲットが自社または商品とマッチ”



取組みの効果

①新入生の交通行動

②新入生の居住地

③ツールの啓発効果

④二酸化炭素排出量の削減

効果① 新入生の交通行動



交通行動

- 平成22年度は、平成21年度に比べ、**バイクや自動車の割合が約1割下がり、徒歩・自転車の割合が高くなっている。**

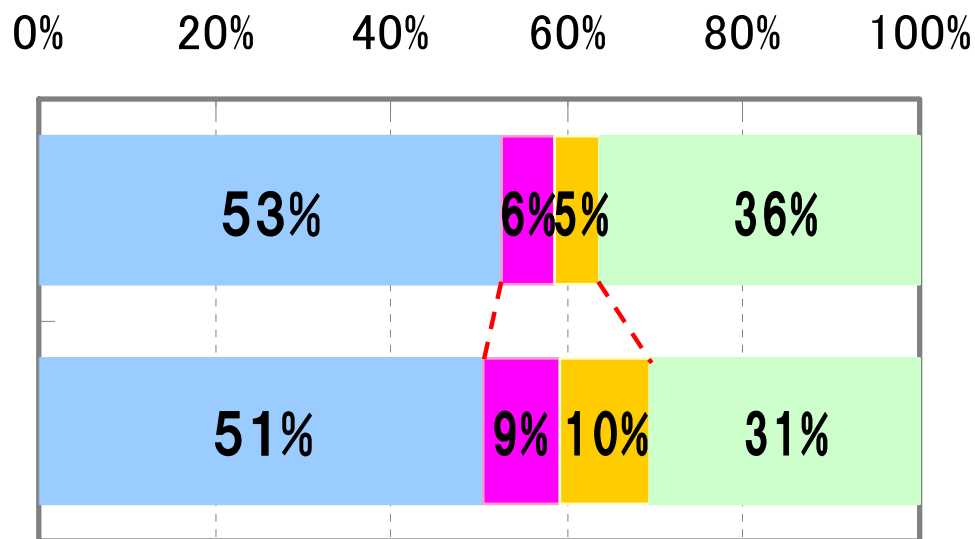
“合格通知”に同封

ツール配布

平成22年度

ツール未配布

平成21年度



■ 公共交通 ■ 自動車 ■ バイク ■ 徒歩・自転車

※居住地区から大学間の距離帯別交通手段割合結果
 (平成22年度：775票、平成21年度：598票) により、
 全数 (平成22年度：4,002人、平成21年度：4,011人) へ拡大

▲配布・未配布別交通手段割合(拡大後)

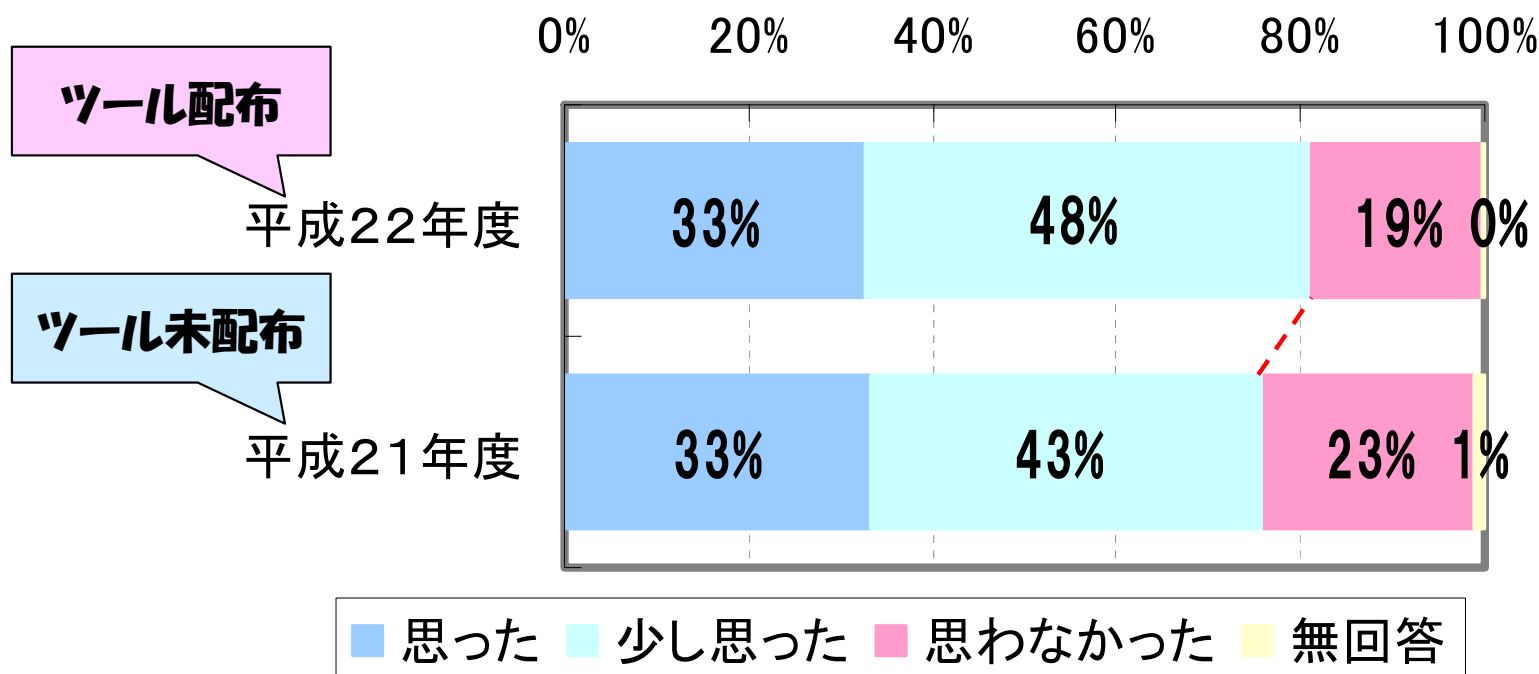
効果② 新入生の居住地



居住地選定時の意識

・住居を選定する際に**公共交通の便が良い所にしようと思った方の割合が**、平成21年度の約76%から平成22年度は81%へ、**5%高くなっている。**

住居を選定する際に、**公共交通の便が良い所にしよう**と思いましたか？



※一人暮らしの学生のみ回答

※有効票数 平成22年度：263票 平成21年度：184票

▲配布・未配布別居住地選定時の意識

効果③ ツールの啓発効果



特によかった情報は
何ですか？（在学生）

【宮城大学（大和）】

- ①定期・カード比較（44%）
- ②地図情報（42%）
- ③バスのメリット（41%）
- ④時刻/便数（31%）
- ⑤定期券の情報（30%）
- ⑥乗場案内（14%）
- ...

【仙台白百合女子大学】

- ①時刻表（66%）
- ②運賃/定期券（34%）
- ③地図情報（22%）
- ④環境にやさしい話（19%）
- ⑤バスカードの種類（19%）
- ⑥乗場案内（17%）
- ...

新入生の公共交通利用率 + **15%**

+ **9%**

【東北生活文化大学】

- ①時刻表（65%）
- ②乗場案内（34%）
- ③運賃情報（22%）
- ④地図情報（10%）
- ⑤どこバス仙台（9%）
- ⑥啓発等コメント（6%）
- ...

+ **7%**

【宮城学院女子大学】

- ①地図情報（40%）
- ②運賃/定期券（39%）
- ③乗場案内（21%）
- ④エクササイズ情報（19%）
- ⑤CO₂の情報（19%）
- ⑥バスカードの種類（17%）
- ...

± **0%**

【東北学院大学（泉）】

- ①地図情報（50%）
- ②時刻表（35%）
- ③乗場案内（27%）
- ④運賃/定期券（12%）
- ⑤困った時の連絡先（12%）
- ⑥消費カロリー比較（5%）
- ...

± **0%**

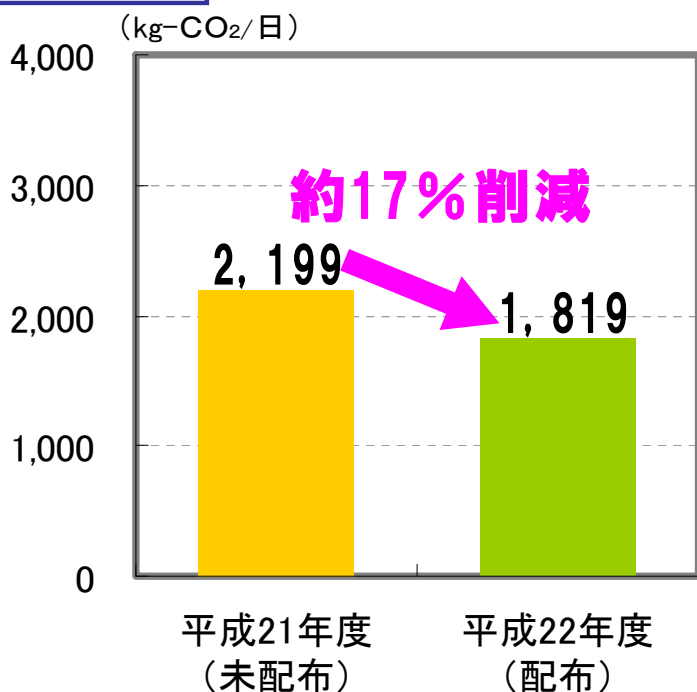
効果④ 二酸化炭素排出量の削減



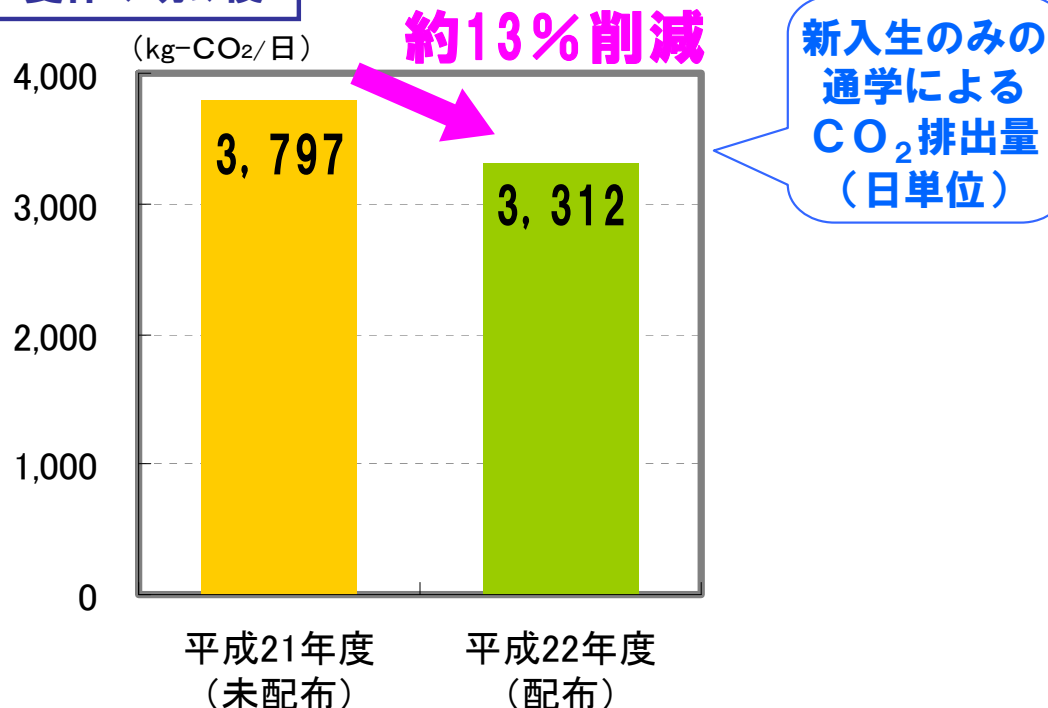
CO₂排出量の削減状況(入学時・夏休み後別)

- 新入生への交通情報ツール配布に伴う、通学時の交通手段における自動車やバイクから公共交通等への変化により、入学時で約17%、夏休み明け後で13%のCO₂削減効果が推計された。

入学時



夏休み明け後



※自動車CO₂排出量マップ(環境省 環境GISより)の原単位による試算
 ※サンプル値(5大学合計)(平成21年度:598票、平成22年度:775票)より
 全数(平成21年度:4,011人、平成22年度:4,002人)へ拡大

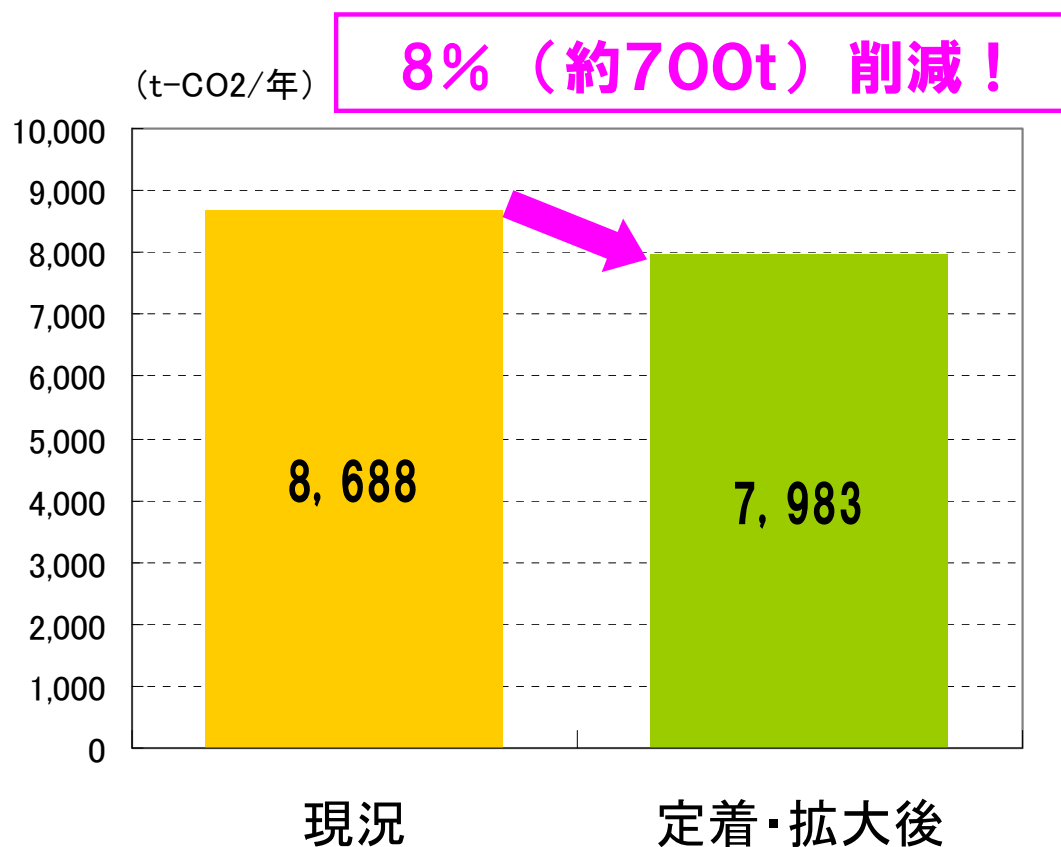
▲平成22年度の新入生への交通情報ツール配布によるCO₂排出量削減状況(推計値、5大学合計)

効果④ 二酸化炭素排出量の削減



CO₂排出削減量試算(定着・拡大後)

- 本取組みが定着・拡大し、14大学すべてで行うようになった場合、**年間約700トンのCO₂排出量が削減**される計算となる。



▲交通情報ツール配布によるCO₂排出量削減状況(14大学、推計値)

取組みのポイント

- ①”利用者目線“によるこだわり
- ②“大学当局”とのコミュニケーション。
- ③続けていくための“マネジメント”。

ポイント① “利用者目線”によるこだわり。



ワークショップによる交通情報ツール作成の標準的な流れ

内 容

必要な資料

【第1回】

意見を
たくさん
引き出す。

・趣旨説明

・動機付け

バスの必要性、現状の不満

・交通情報ツール検討

オリジナル情報、利用促進情報、
仕様、構成の検討

●市営バス・宮城交通路線図

●総合バスマップ

○大学発着の路線掲載図

●全国の事例

○仕様案

○掲載情報例(時刻・料金情報等)

【第2回】

載せる情報
を詰める。

・交通情報ツール検討

交通情報ツール掲載マップ・
情報の検討

○オリジナル路線マップ

○掲載情報案

【第3回】

案をたたく。

・交通情報ツール検討

交通情報ツール案の検討

○交通情報ツール案

たたく。

たたく。

・・・

・交通情報ツール修正案確認

○交通情報ツール修正案

・交通情報ツール最終稿確認

※●:既存資料、○:作成資料

ポイント① “利用者目線”によるこだわり。



不満もあるけど、
乗ってみれば結構使える！



・遅れる
・時間がかかる

ゆといをを持った生活
車内での時間活用



バスが
たくさん

- ・時刻表
- ・大学の時間割
- ・急行バス
- ・地下鉄時刻表？
- ・路線近辺の施設・お店
- ・「街」へ便利な停留所？
- ・仙台駅終点はどこ？
- ・車内での過ごし方あれこれ

カラダにも
環境にも優しい♪



環境に
優しい

・揺れる
・座れない

ダイエットに効果的



- ・二酸化炭素削減効果は？
- ・ダイエット効果は？
- ・渋滞緩和ってホント？

ポイント① “利用者目線”によるこだわり。



まちなかで持って歩いても恥ずかしくないデザイン・サイズ



手のひら
サイズ

手帳の
ように
めくって
使える



愛着を生む“ならではの”のオリジナリティ



「美術学科
ならではの」
の手作り感

「大学ならではの」
のキャラクター



ポイント② “大学当局”とのコミュニケーション。



大学のメリット

- 大学のイメージ向上
- 学生の意識向上
- 通学時の交通情報の提供(=学生・親のメリット)
- 居住地選定時の地域情報の提供(=同上)
- 通学時の交通事故減少
- 駐車場スペースの有効活用

学生・親のメリット

- 学生の安全性・健康・社会性の向上

地域のメリット

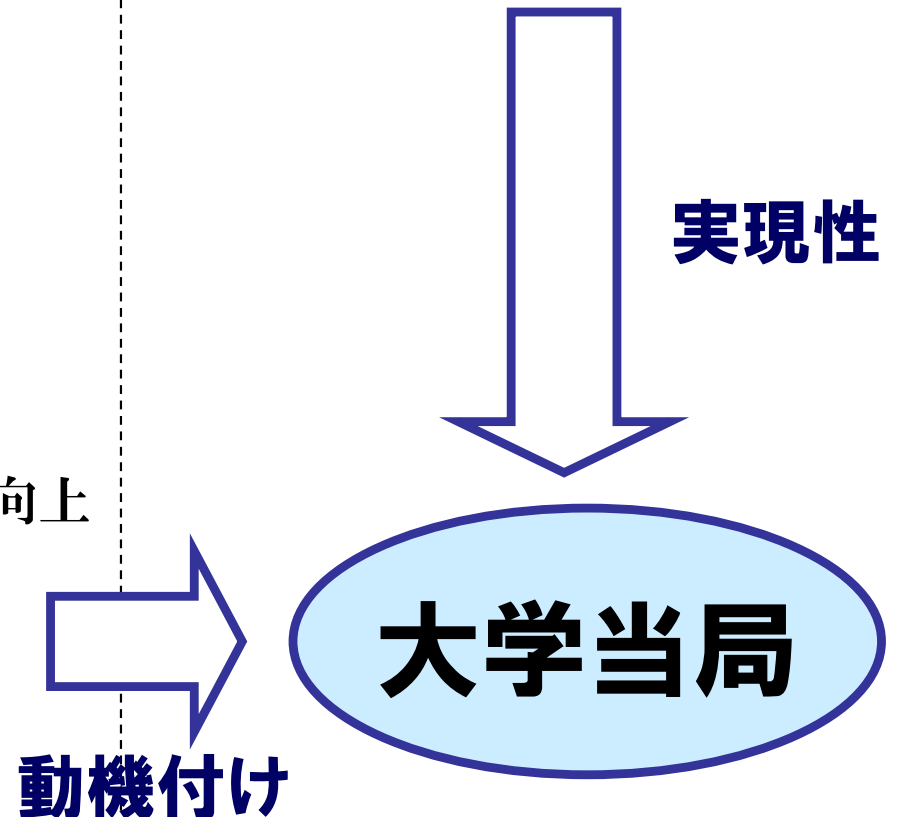
- 渋滞緩和、温暖化防止、公共交通サービスの向上

(試行後)実際の効果

- 試行⇒効果をフィードバック

継続を見据えた仕掛け

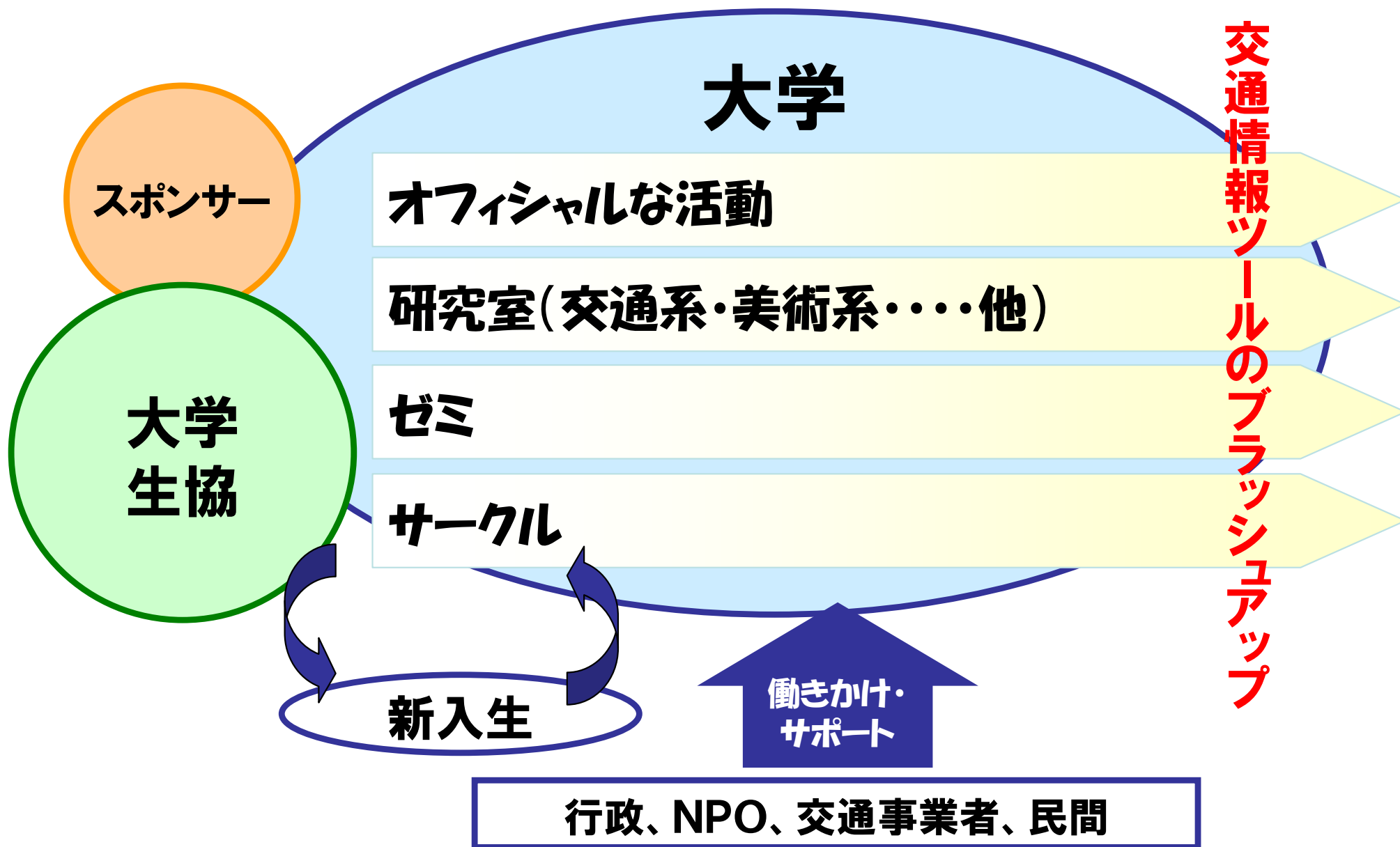
- 大学生協との連携
- 民間企業との連携
- 先生・研究室との連携
- 行政のサポート



ポイント③ 続けていくための“マネジメント”。



大学内で持続可能な交通情報ツール作成のマネジメントが重要



ご静聴ありがとうございました。